

事業報告書 (平成 30 年度)

事業名 自然トーク「溪流の妖精たち～水生昆虫の驚きの世界をのぞいてみませんか～」

団体名 中学高校環境研究会 担当者名 宮内 伸弥

※活動の様子がわかる写真 (データもお願いします) と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容 (日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

日 時 : 平成 30 年 11 月 11 日 12:00～15:20

場 所 : 蒜山なごみの湯 津黒高原荘 人 数 : 70 名

参加対象者 : 水生昆虫研究会参加者 (岡山市内の大学生、高校生含む)、昆虫・自然環境に興味のある一般の方

内 容 : 第 42 回水生昆虫研究会アフターイベントとして、特別セッション「驚くべき水生昆虫の世界～最新の研究から」のタイトルで開催した。岡山理科大学中村圭司先生からは、岡山県内の昆虫研究について、特に水生昆虫の内容について、岡山の河川は全国的にも水生生物相が豊富であることが報告された。株式会社国六黒田眞路氏からは新庄村の森の紹介、冬季に大量に使用される融雪剤被害についての懸念が報告された。信州大学東城幸治先生からは、日本が生物多様性のホットスポットであること、フォッサマグナを境にして東西で遺伝的な違いが見られることなどについて、日本列島の成り立ちから信州大学で行われている遺伝子研究について丁寧な説明がなされた。大阪市立自然史博物館の谷田一三館長からは、「水生昆虫と人間社会」のテーマで、生活の多くを水中で過ごすことから指標生物として利用される水生昆虫について、利用方法の種類やシステム構築の歴史、問題点について興味深い話を聞くことができた。会場からは、実際に水質階級を使ってみるとパックテストの検査結果と合わないことがあり使いにくいとの声があがった。河川によって水生昆虫の生態にも違いがあること、細かい同定が必要な種が増えた場合、一般市民の使いやすさを考慮すると利用しにくいなどのジレンマが話された。



会場の様子



岡山理科大学 中村圭司先生
「岡山の昆虫の研究から」



株式会社国六 黒田眞路氏
「融雪剤被害 源流の森林事情」



信州大学 東城幸治先生
「水生昆虫の特異な進化と生態」



大阪市立自然史博物館 谷田一三先生
「水生昆虫と人間社会」

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

地元真庭市から森林事業者を招いて、融雪剤の問題について、普段から働いている場所の自然環境への懸念を報告してもらった。専門家からも十分に議論の余地があることが示された。岡山市民にも、源流域の課題について発信が行われた。岡山の自然科学研究の報告も取り入れ、専門家に岡山の河川の生物多様性に興味をもってもらえるように努めるとともに、地元岡山の研究者育成のために、岡山の河川の現状について理解を促した。岡山でも河川等で行われている水生生物を利用した学習会、指標生物を利用した水生昆虫調査などは各地で行われているが、水生昆虫の専門家は未だ少ない。専門家から最新の研究や指標生物の話題について面白く、分かりやすく解説してもらうことで専門家を目指す人を増やすことを狙った。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

昆虫の中でも水生昆虫に特化したセッションであったが、河川環境を考えるうえで、理化学的な水質と同様に重要とされる指標生物としての水生生物に関して専門家に話をしてもらう意義は大きい。特に、岡山は3つの一級河川を持ち、下流域の用水も多いことから、岡山市民にも非常に有意義だったと言える。参加者からも、魅力的な水生昆虫の世界に興味関心をもてたとの感想があった。岡山の大学生、高校生も多く参加し、若手研究者の育成にも寄与できたと考える。指標生物を利用して環境学習などの活動をしている方にとっても、日頃感じている疑問をぶつける場に来た。

4. 今後の課題と展望

岡山の水生昆虫の専門家は未だ少ないが、岡山の大学生や高校生の参加が多くあったことから、今後の水生昆虫研究の発展に大きく寄与できたと考える。今後も、このような交流行事を企画して、全国の水生昆虫の専門家と、学生や昆虫・自然環境に興味関心をもっている一般市民の参加を通して水生昆虫の専門家を目指す人を増やしていきたい。開催場所については、自然あふれる津黒高原を選択したが、岡山市から参加しにくい点が指摘された。岡山市内での開催も企画したい。

また、水生昆虫は河川ごとに異なる生態をもつことから、岡山の水生昆虫相、生態をいち早く把握することが求められる。また、水生昆虫の生体写真データに十分な量がないため、幼虫は元より、成虫の生体写真について収集を進めたい。そして、岡山版の水生昆虫図鑑の作成に向けて取り組んでいきたい。